

## 県外派遣報告書

審判員名	北島寛臣	所属	高体連
大会名	第55回全国高体連審判研修会及び平成26年度全国高等学校総合体育大会		
期間	平成26年7月29日～8月5日		
会場	船橋市総合体育館、八千代市市民体育館他		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
7月29日(火)	第55回全国高体連審判研修会開講式	八千代市緑ヶ丘公民館	
7月30日(水)	班別トレーニング、モデルゲーム、講義	船橋市総合体育館	
7月31日(木)	班別トレーニング、モデルゲーム、閉講式	八千代市市民体育館	
8月1日(金)	審判会議	八千代市緑ヶ丘公民館	
8月2日(土)	1回戦 飛龍(静岡)－帝京長岡(新潟)	船橋市総合体育館	
8月3日(日)	2回戦 京北(東京)－桜丘(愛知)	船橋市総合体育館	
8月4日(月)	3回戦 東海大四(北海道)－藤枝明誠(静岡)	船橋市立体育館	
8月5日(火)	4回戦 桜花学園(愛知)－東京成徳(東京)	八千代市市民体育館	
研修会開講式 内容			
<p>審判研修会では「信頼される判定をするため～ルール、マニュアルの正しい理解と運用～」というテーマの下、講師の清水幹治氏より全体講義が行なわれた。研修会に望むにあたり、新たな気持ちで取り組みモデルゲームに全力を尽くしてほしいということ。ルール、マニュアルの正しい理解と正しい運用が必要であり、その場にあった対応を二人で共通理解を図りながら行なうこと。また、審判員の言動についても話がなされた。</p> <p>班別ミーティングも行なわれ、講師の方からの挨拶の後、それぞれ自己紹介とともに現在の課題等を話し合った。</p>			
研修会トレーニング			
1日目	期 日	平成26年7月30日(水)	会場
			船橋市総合体育館
トレーニング内容		講師 石黒 勉 氏 岩木太郎 氏	
<p>①アップ</p> <p>②ファンダメンタルトレーニング 空動きなので自分でさまざまな状況をイメージして行う。</p> <p>③オールコート2対1から3対2 フリースロー時にプレイヤーとのアイコンタクトを心がける。情報をすばやく入れる。</p> <p>④ハーフコート4:4(約束練習)</p> <p>1. ジャンプショット</p> <p>2. ドライブ</p>		<p>3. ボールサイドカット</p> <p>4. ピック&amp;ロール</p> <p>⑤オールコート4対4(1往復)</p> <p>ボール中心になるのではなくどのように展開されるのを見極めなくてはならない。 どのプレイが重要なのかを判断し二人の協力の中で誰がどう見るかしっかり理解する。 プレゼンテーションまでが判定である。</p>	

2日目	期 日	平成26年7月31日(木)	会場	八千代市市民体育館
トレーニング内容		講 師 石黒 勉 氏 岩木太郎 氏		
①アップ ②ハーフコート4:4(約束練習) コントクトのみでなく、足元を確認する。 二人の役割分担を明確にする。 ③オールコート3対4から4対3 二人で協力して判定をすること。 但し、二人でボールを見ない。 プレスディフェンスの対応。		④フリースローから4対4 いろいろなところに気を使って行なう。 より多くの情報を入れて的確に判断する。  二人の役割分担をしっかりと行なうこと。コートの上で何が起きているのかを常に知っておくことが重要である。 二人で共通理解をして望むこと。		
A、B班合同講義				
	期 日	平成26年7月30日(水)	会場	船橋市総合体育館
講義内容		講 師 須黒祥子 氏		
<p>信頼される審判員になるために必要な要素とは何かというなかで、Presentation, Game control, Play calling, Game Managementの4つの要素が挙げられそれぞれについて動画も交え説明がされた。私の中ではRefereeはディフェンスに目を当てるのがポイントになるということや、触れ合いに対する影響の考え方について特に参考になった。RSBQということについてはわかりやすく、今後の私自身の判定の考え方として生かしていきたいと思った。</p>				
インターハイ1回戦				
担当試合	期 日	平成26年8月2日(火)	男子 女子	会場:船橋市総合体育館
	対戦カード	飛龍(静岡) VS 帝京長岡(新潟)	主審	副審
	相手審判	岩田大祐氏(千葉)		
ミーティング内容		主任 相原伸康 氏		
<p>プレイヤーのインサイドの手の使い方をゲームのはじめに簡単に切っておくこと。シュートが当たり出した時にそのプレイヤーに対するディフェンスのつき方が変わってくることを理解しておかなければならない。</p> <p>ピック&amp;ロールに対する判定ができていない。セットの状況、オフenseの抜き際、その際のスクリーンのセットの仕方、引っかけり方、全てしっかりと判定することが必要だと反省された。ピック&amp;ロールに対する判定が仕切れなかったのは事実であり、オフenseディフェンスの双方をしっかりと確認する必要があると感じた。</p>				
インターハイ2回戦				
担当試合	期 日	平成26年8月3日(水)	男子 女子	会場:船橋市総合体育館
	対戦カード	京北(東京) VS 桜丘(愛知)	主審	副審
	相手審判	安藤俊明氏(千葉)		
ミーティング内容		主任 谷古宇孝 氏		
<p>ディフェンスの身体の寄せ方、リバウンド時の手の置き方についてもっと確認し、しっかりと目を当てておかななくてはならないと反省された。確かにディフェンスの触れ合いがオフenseに影響があるのかどうかを細やかに判定しておかななくてはならないと感じた。ギャロップの見極めと判定にも課題が残った。技術としてとらえられるものなのかどうか、しっかりと理解したい。フロッピングに対しても対応ができていなかった。どのカテゴリーでも必要なことなのでしっかりと対応できるようにしたい。</p>				

インターハイ3回戦

担当試合	期 日	平成26年8月4日(木)	男子 (女子)	会場: 船橋市立体育館
	対戦カード	東海大四(北海道) VS 藤枝明誠(静岡)	主審	(副審)
	相手審判	大庭英裕氏(本部)		

ミーティング内容 主任 平原勇次 氏

最初の肘のファールを相手審判にとっていただいたおかげでゲームがスムーズに進行できた。ゲームの出だしの笛の入れ方、基準の示し方、そういったことをしっかりと行なうことでベンチや選手との信頼関係も生まれてくるのだと思った。ゲームの中でベンチにクレームを言わせないようにタイミングよく笛を入れておくことが大事であると改めて感じた試合であった。

インターハイ4回戦

担当試合	期 日	平成26年8月5日(金)	男子 (女子)	会場: 八千代市市民体育館
	対戦カード	桜花学園(愛知) VS 東京成徳(東京)	主審	(副審)
	相手審判	清水幹治氏(本部)		

ミーティング内容 主任 相原伸康 氏

自分自身を出すことができずに何もしないで終わってしまい悔しい試合であった。余計なことを考えず、目の前の試合、プレイに集中し続けることができなかった。自分ではプレッシャー等を感じているつもりではなかったが、事実としていつものように判定することができずに非常にもったいない試合であった。どのような試合でもしっかりと自分を出しきれるようにする強さが必要だと感じた。

全体の感想

今回で8回目の研修生ということで参加させていただきました。毎年参加するたびに新しい刺激を受け自分の糧になっていると思います。今年については初めて4回戦をいただくことができ、うれしいと思う反面、その試合において自分自身をしっかりと出すことができず悔しさも残った大会でした。研修会や講義の中で今自分が悩んでいることやもやもやとしているところなどが解決できたり、方向性が見えたりし、また、レベルの高い試合を任されることにより、より一層の責任感を持つことができました。試合では選手のために頑張っているのはもちろんですが、自分自身が更にレベルを上げることができるようこの大会をきっかけにしていきたいと思います。最後に千葉県高体連の皆様、千葉県バスケットボール協会の皆様には大会期間中細やかな点までお気遣いいただき大変感謝しております。この場をお借りして御礼申し上げます。また、今年度千葉インターハイに派遣していただいた埼玉県協会、高体連の皆様にも感謝申し上げます。何とか地元埼玉県にこの経験を生かしていきたいです。ありがとうございました。